田辺町埋蔵文化財調査報告書　第12集

宮の下遺跡発掘調査概報

（近畿日本鉄道京都線新車庫建設地の調査）

1990

田辺町教育委員会

宮の下遺跡発掘調査概報

（近畿日本鉄道京都線新車庫建設地の調査）

1990

田辺町教育委員会

9・10・11 トレンチ（東から）

例　　言

1　本書は、田辺町教育委員会が行った京都府綴喜郡田辺町大字宮津小字灰崎・池ノ内に所在する宮の下遺跡の発掘調査概要の報告である。

2　調査は近畿日本鉄道株式会社が計画した近鉄京都線新車庫建設にともない実施した。

3　現地調査は第１次の新車庫予定地全域を対象とした試掘調査を昭和61年７月31日に開始し同年12月29日に終了し、本格調査の必要が認められた宮の下遺跡について、昭和62年９月３日から同年12月26日、昭和63年５月23日から同年９月３日にかけて実施した。

4　調査の組織は次のとおりである。

調 査 主 体・・・田辺町教育委員会

調査担当者・・・田辺町教育委員会社会教育課　鷹野一太郎

調査事務局・・・田辺町教育委員会社会教育課

5　本書の執筆・編集は鷹野が行った。

目　　次

1　はじめに …… 1

2　調査概要 …… 2

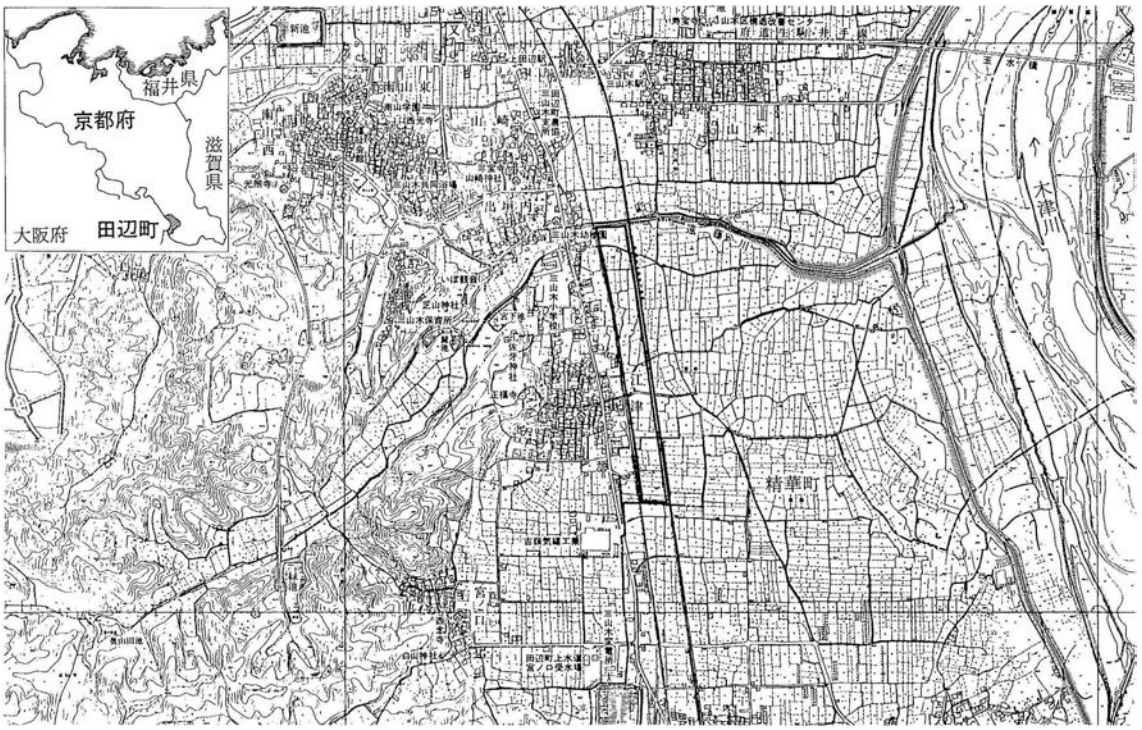
3　出土遺物 …… 11

4　まとめ …… 12

1　はじめに

宮の下遺跡は、田辺町南部の三山木･宮津地域に広がる遺物散布地として知られていた。近畿日本鉄道株式会社では、京都線の三山木駅の南側、遠藤川以南から精華町にかけての近鉄線とJR線片町線の間に新たに車庫を建設することを計画し、田辺町教育委員会では昭和61年度に当該地の試掘調査を近鉄の依頼で実施した。その結果、車庫建設予定地のほぼ中央部に位置する宮の下遺跡で弥生時代や奈良時代の遺構・遺物がみつかったため、本格調査を実施することとなったものである。

現地調査は昭和62年度、昭和63年度の２か年で実施した。



調査地位置図（S=1:10,000）

2　調査概要

試掘調査の結果を受け、遺構・遺物がみつかった部分を中心に８から13までのトレンチを設定し調査を行った。

８トレンチ

試掘で弥生時代中期の方形周溝墓（SX01）がみつかった東側を大きく拡張した調査地北部のトレンチで、古墳時代後期の竪穴住居跡３基（SB34・SB35・SB52)、同時期とみられる掘立柱建物跡２棟（SB36・SB38)、古墳時代後期の溝２条（SD32・SD39)、奈良時代の掘立柱建物跡３棟（SB37・SB50・SB51）などがみつかった。掘立柱建物跡はすべて２間×２間の総柱建物で倉庫とみられる。

SB34　東西3.6m ×南北4.2m　東側にかまど、西に出入口を設ける。

SB35　東西3.6m ×南北3.0m 以上　南側は SD32に切られる。

SB52　東西4.5m ×南北3.5m

SB36　東西２間（3.2m）×南北２間（2.8m）の総柱建物。

SB38　東西２間（3.1m）×南北２間（4.1m）の総柱建物。

SB37　東西２間（3.4m）×南北２間（3.4m）の総柱建物。

SB50　東西２間（3.7m）×南北２間（3.7m）の総柱建物。

SB51　東西２間（3.6m）×南北２間（3.3m）の総柱建物。

９トレンチ

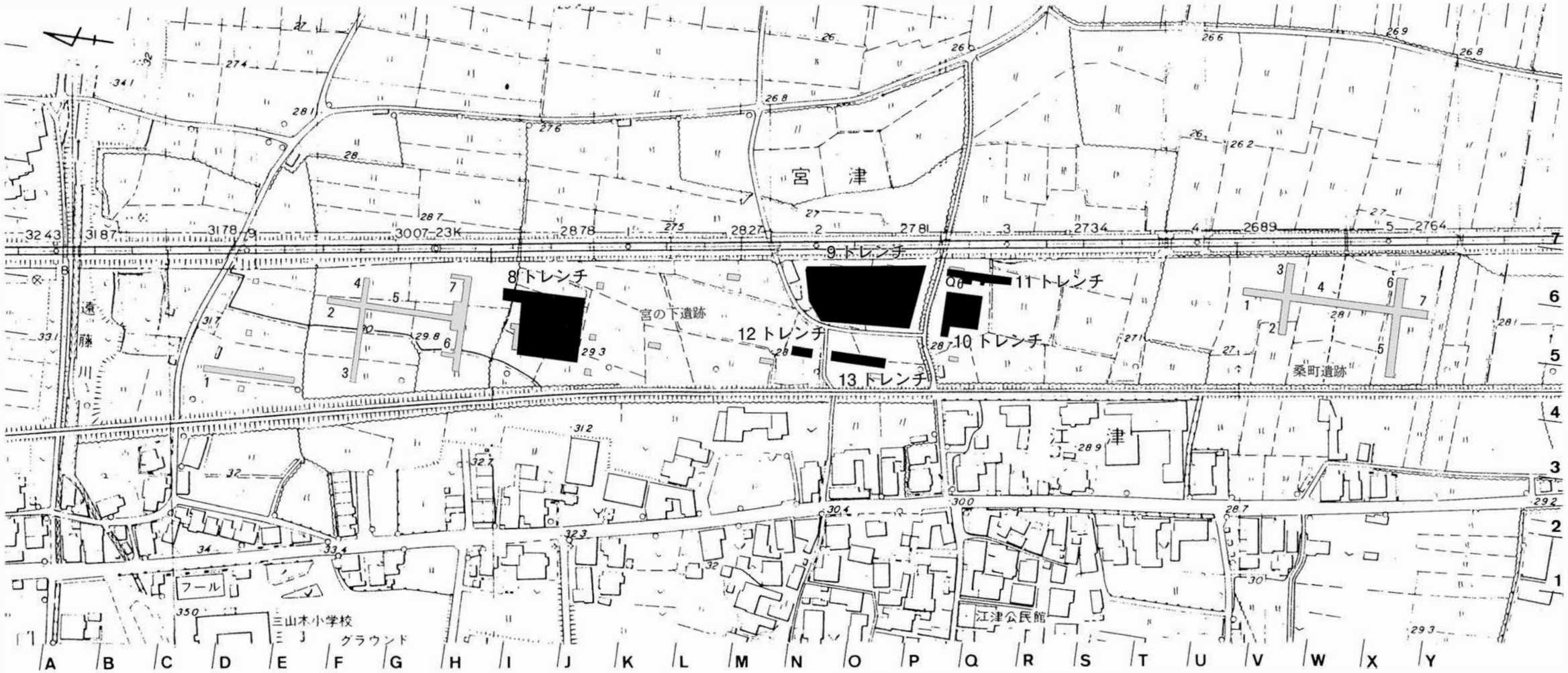
試掘で奈良時代とみられる掘立柱建物跡などがみつかった部分を大きく拡張したトレンチで、トレンチ北半部から奈良時代後半の掘立柱建物跡２棟以上（SB12・SB31)、平安時代の井戸跡（SE18)、時代不明の掘立柱建物跡（SB40)・溝（SD11）などがみつかった。

SB12　東西1間（2.1m）以上×南北２間（4.5m）以上か。

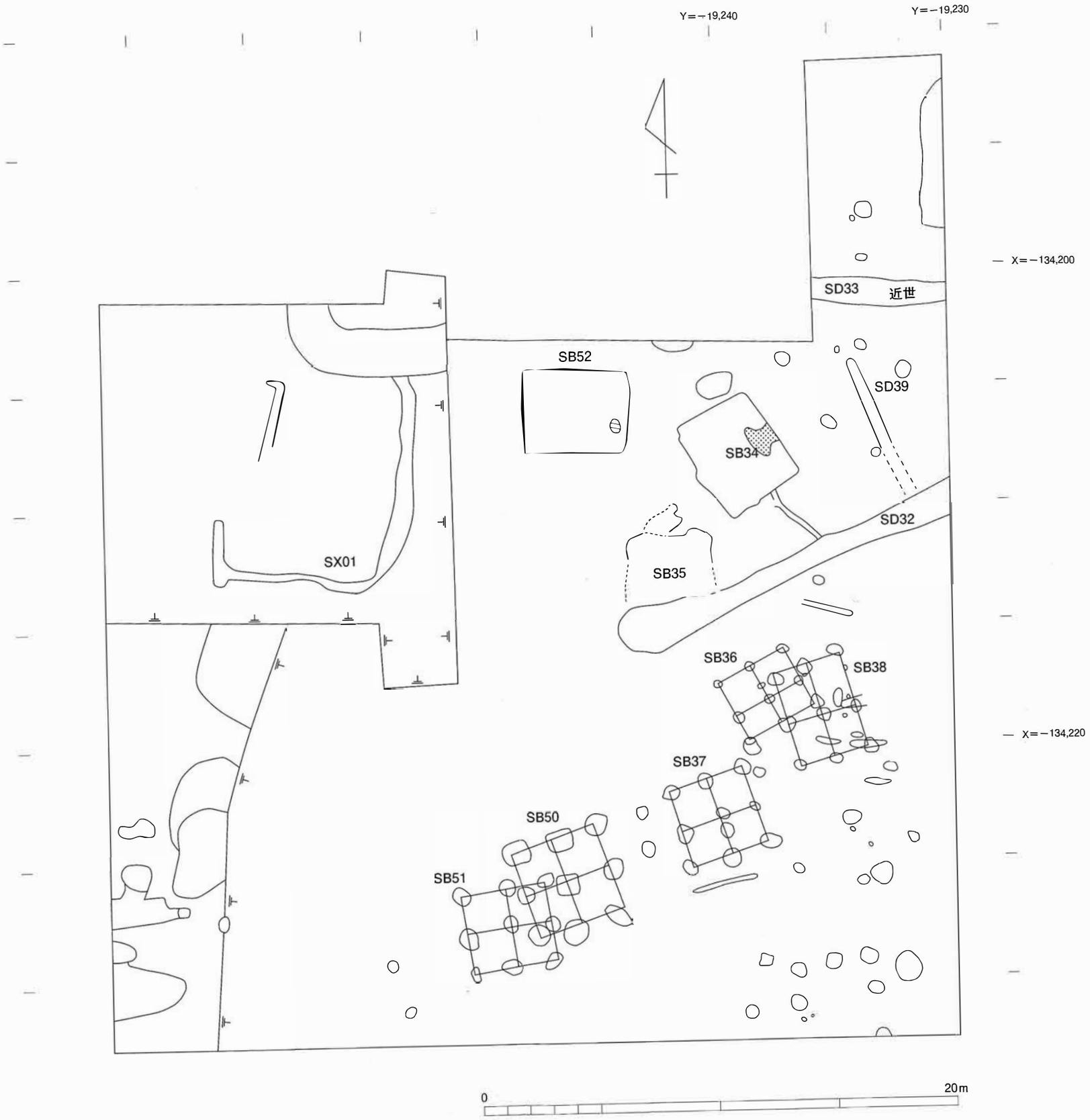
SB31　北柱列とみられる東西５間（9.6m）のみがみつかったもの。

SB40　東西２間（3.2m）×南北２間（3.8m）の総柱建物。

SE18　東西３m ×南北２m の掘方で、建物の転用材13枚を縦板として巡らせ木枠としたもの。木枠の内側で径約0.65m、 深さ0.7m が残っていた。

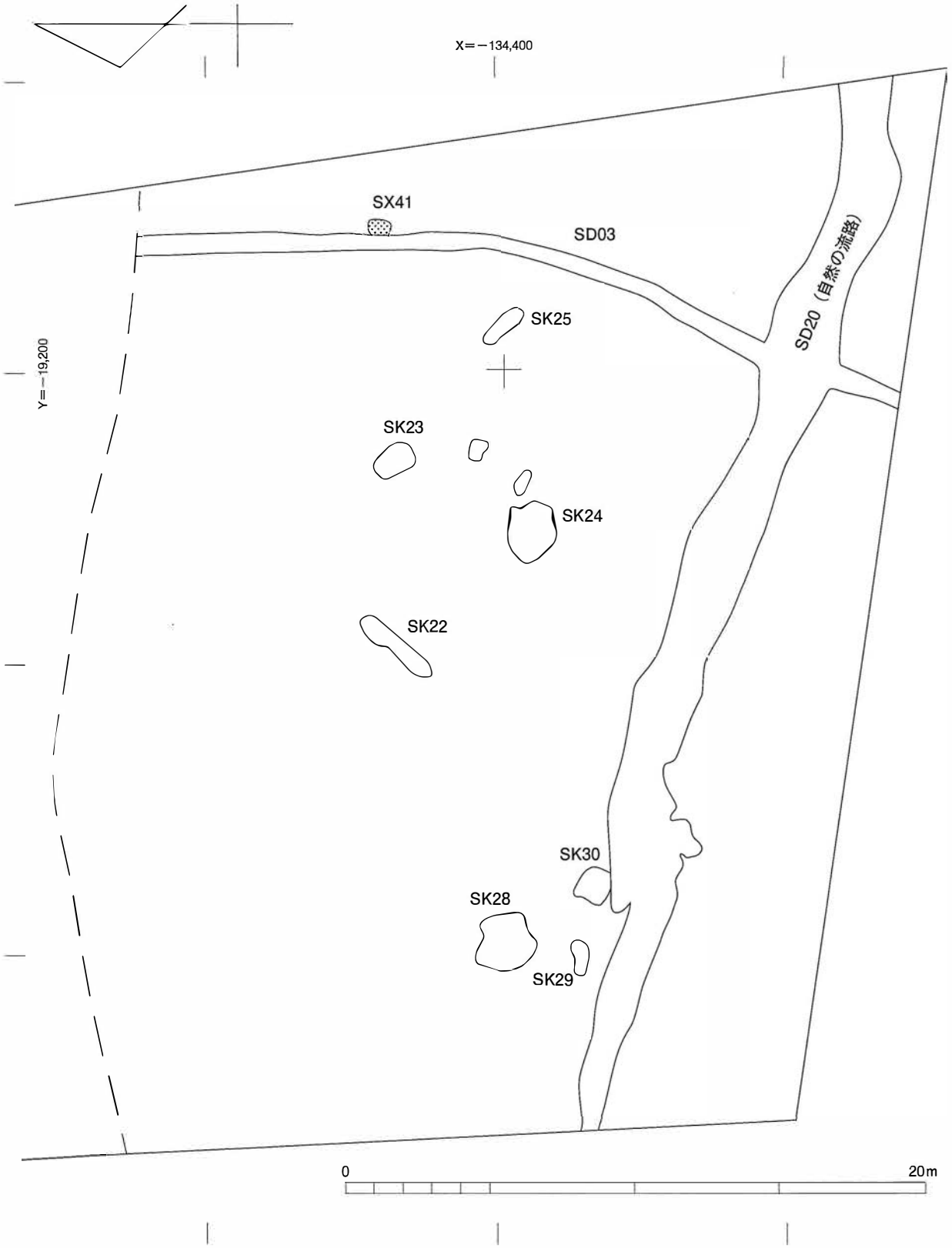


トレンチ配置図（S=1:2,500）

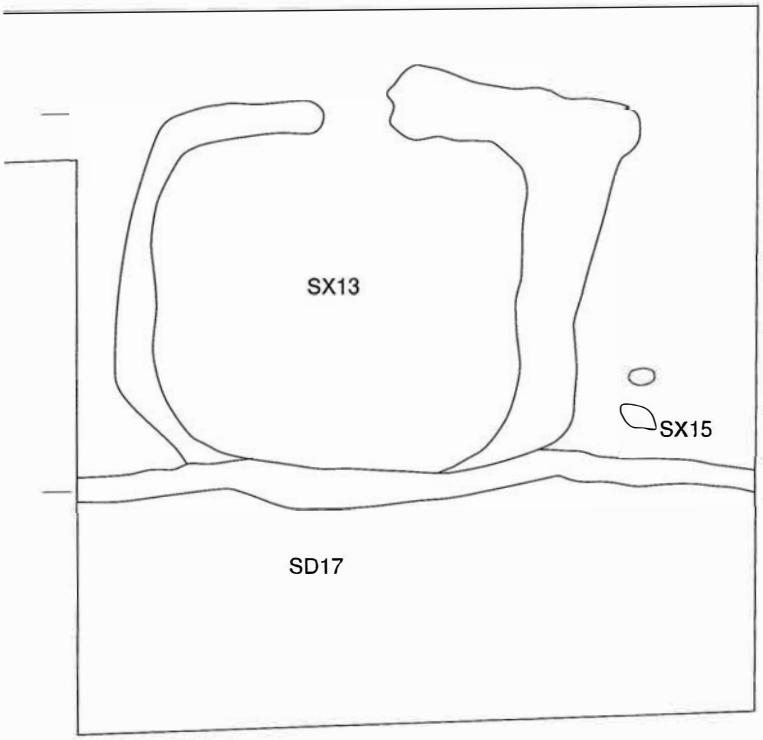


8トレンチ調査図（S=1/200）

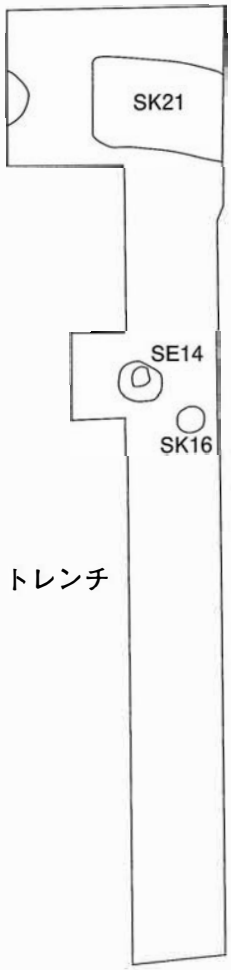
9トレンチ調査図（S=1/200）



９トレンチ南半調査図（S=1/200）



10 トレンチ



11 トレンチ

X=−134,450

0 20m

Y=−19,210

10・11 トレンチ調査図（S=1/200）

奈良時代柱跡群　トレンチ中央の東端部分でみつかったもので、柵のように並ぶものもあるが、よくわからない。

トレンチ中央で大きく段がつき、南側は一段下がるため奈良・平安時代の遺構はみつからなかったが、弥生時代前期の土器を含む薄い層が何層も重なる状況や、弥生時代前期とみてよい土坑が10基ほどみつかったほか炉跡かとみられる焼土（SX41）がみつかった。

10トレンチ

9トレンチの南側に町道を挟んで設定したトレンチで、弥生時代前期の土坑（SK15）、弥生時代後期の方形周溝墓（SX13）、奈良時代の可能性のある東西方向の溝（SD17）がみつかった。

SX13　東西11m×南北9.7mの方形周溝墓、北辺周溝の中央部が途切れ、南辺の多くは後の時代の溝SD17が重なる。主体部は削平されている。

SD17　東西18m以上、幅0.6mの東西方向の溝。東側の11トレンチでは確認できなかった。

11トレンチ

10トレンチの東側に設定したトレンチで、弥生時代後期の土坑（SK21）、中世の井戸跡（SE14）などがみつかった。

12・13トレンチ

9トレンチの西側に道を挟んで設定したもので、奈良時代の建物跡などの発見が期待されたが、すでに削平されたものか、空閑地だったものか遺構の発見はなかった。

3　出土遺物

各トレンチ・遺構から多くの遺物がみつかった。弥生土器・土師器・須恵器・三彩陶器・製塩土器・黒色土器などの土器類、瓦・塼、木製品、土製品などがある。

4　まとめ

宮の下遺跡でのはじめての調査であったが、多くの成果が得られた。わかったことを時代順にしてまとめておきたい。

弥生時代　前期　　土坑ではあったが、町内で初めてこの時期の遺構がみつかった。
　　前期でも後半に属すものとみられる。
　　中期　　中期前半の方形周溝墓がみつかった。
　　後期　　後期末葉の方形周溝墓がみつかった。

方形周溝墓はともに１基のみの発見であったが、弥生時代を通じて、この場所が利用されていた可能性があるのかもしれない。

古墳時代　　前期・中期の遺構はなく、後期になって集落が営まれた。

奈良時代　　９トレンチの北半部では、大規模な建物跡がみつかったほか、当時の高級品である三彩陶器がみつかったことから一般集落ではない官衙的な集落が想像されよう。

平安時代　　井戸跡がみつかり、奈良時代の官衙的な集落がなくなったのちも小規模の集落が存在していたことが想像される。

奈良時代の官衙的集落が何であったか、決め手となる文字等の発見はなかったが、可能性のあるものを列挙して今後の調査の参考にしておきたい。

１　綴喜郡衙　　現在のところ町のほぼ中央部にある興戸遺跡が郡衙と考えられているが、郡衙が移動したと考えれば、この場所が一時期郡衙だったことも考えられる。

２　山本駅　　現在のところ地名から近鉄三山木駅東側にある山本集落付近を駅跡とみているが、地名のみで具体的な確証はなく、この場所を候補地のひとつと考えることもできよう。

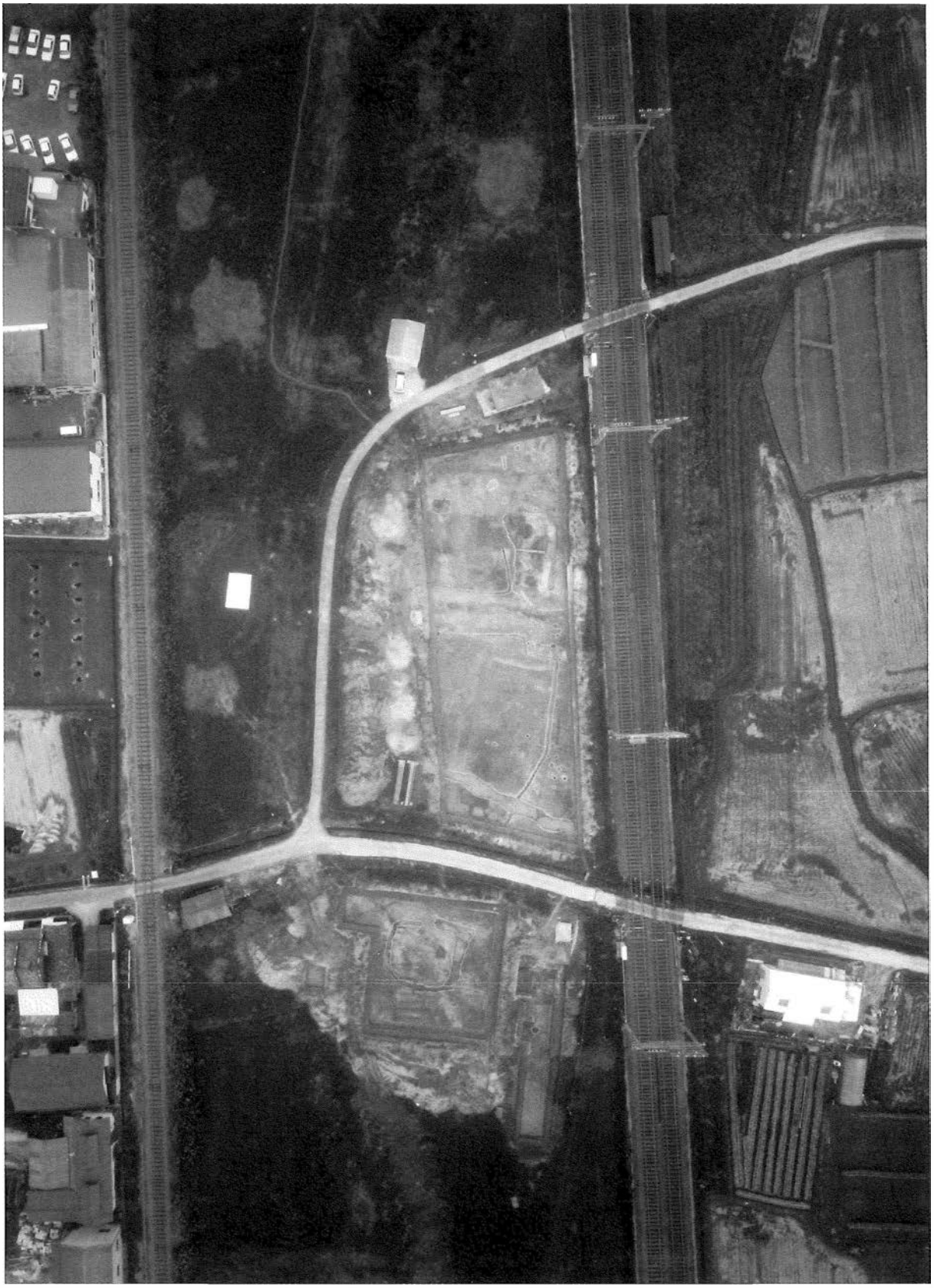
3　津（港）　　調査地が現在江津（えっつ）と呼ばれる地区にあることから、木津川に面した「入り江の津」が奈良時代に存在したとも考えられる。

概ね以上のようなところであると考えられるが、今後の調査を待ちたい。

9・10・11 トレンチ作業風景（南から）

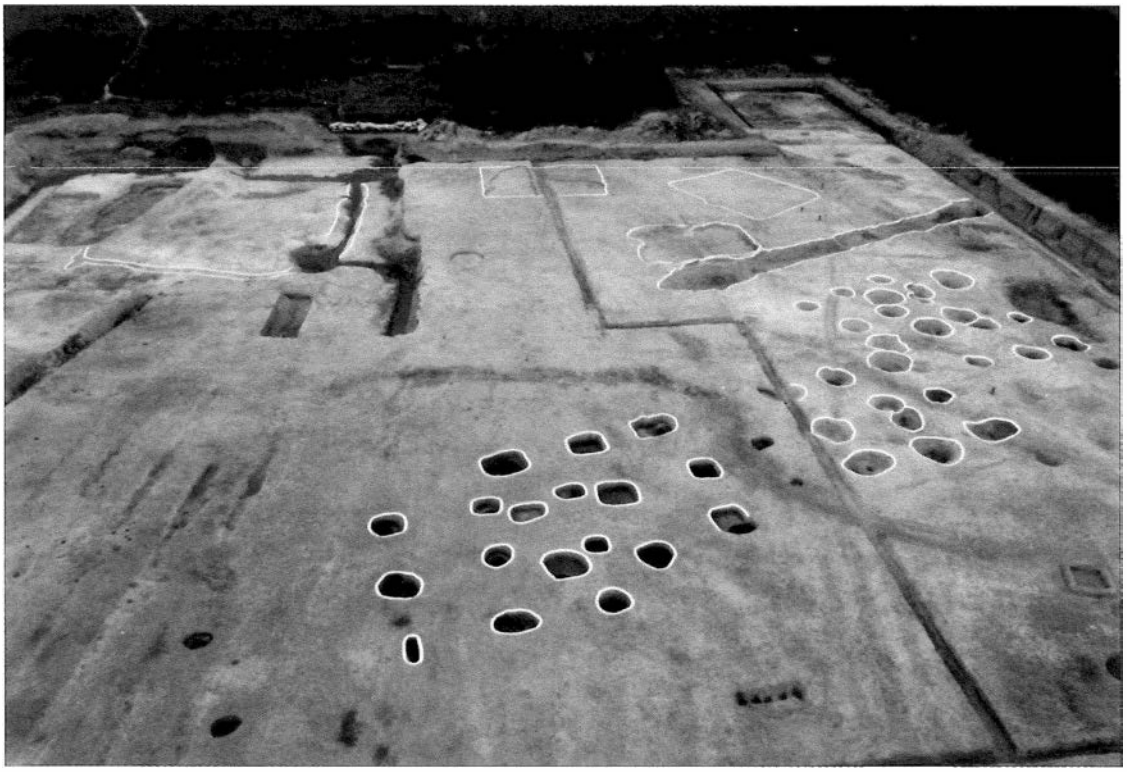
図　　版

図版 第1



調査地全景　9・10・11 トレンチ（上が北）

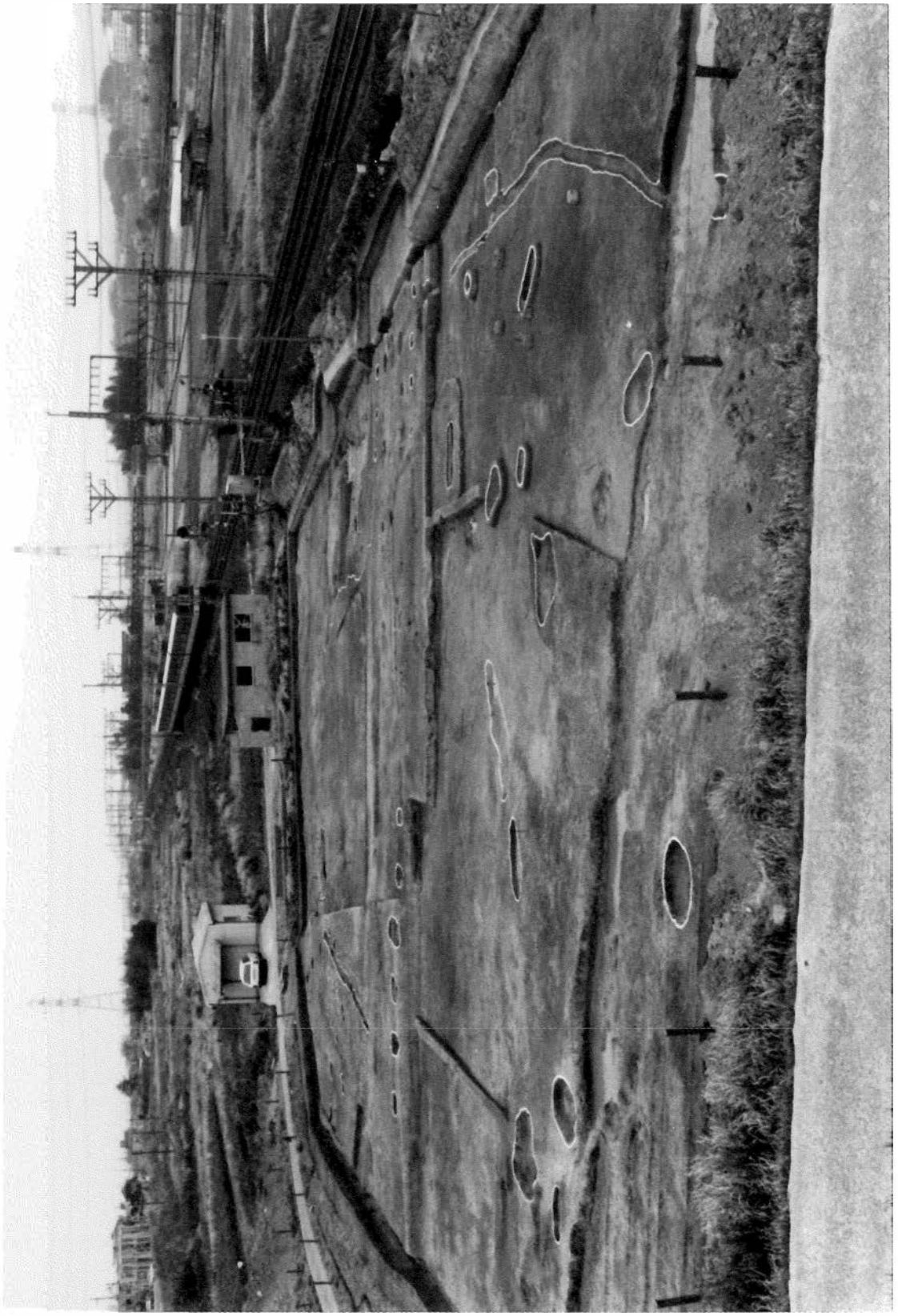
図版 第２



（1） 8トレンチ（南から）

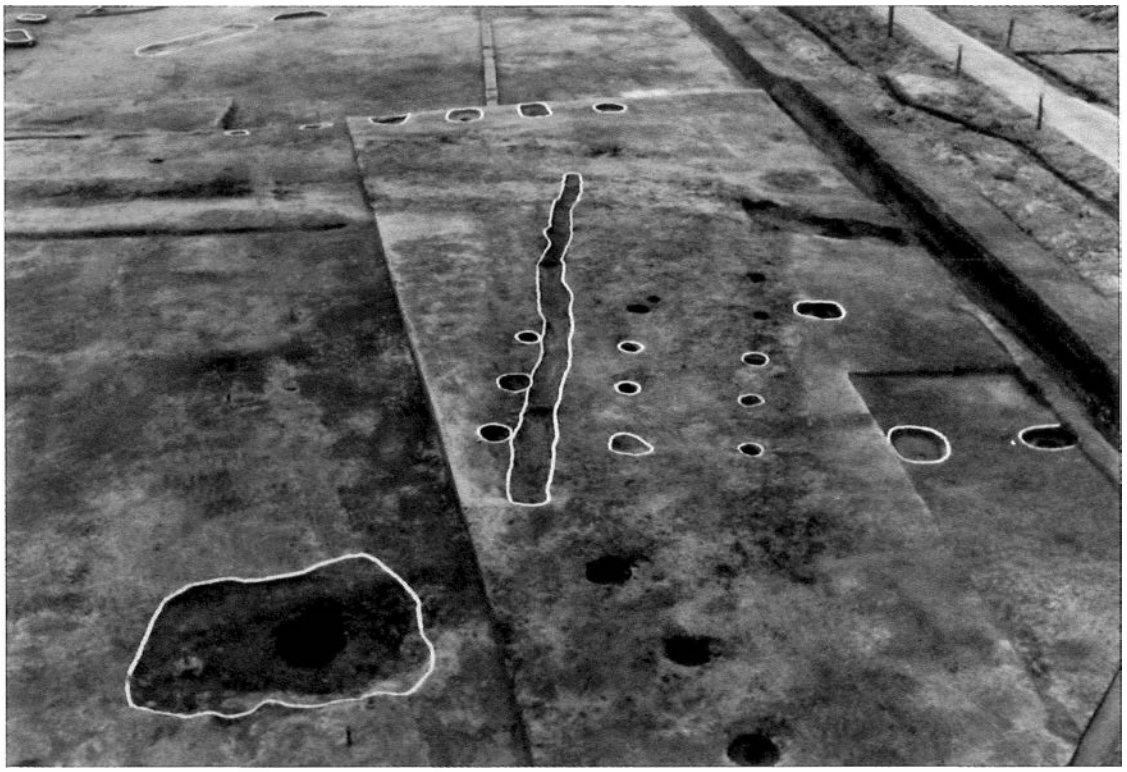
（2） 8トレンチ（東から）

図版 第３

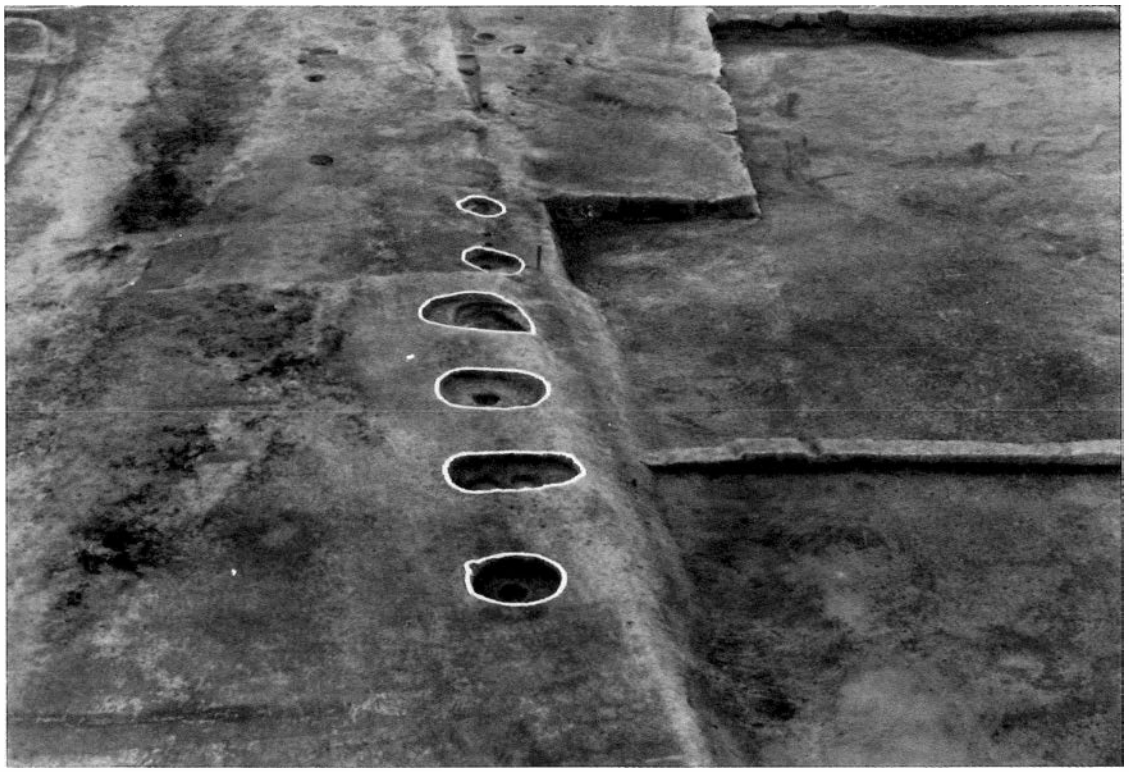


９トレンチ（南から）

図版 第４

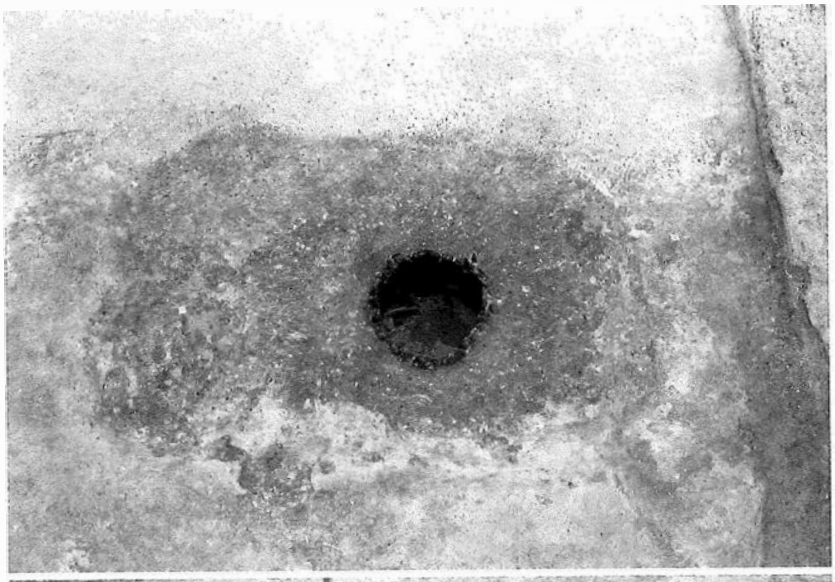


（1） ９トレンチ（北から）



（2） SB31（西から）

図版 第５



9 トレンチ SE18（北から）

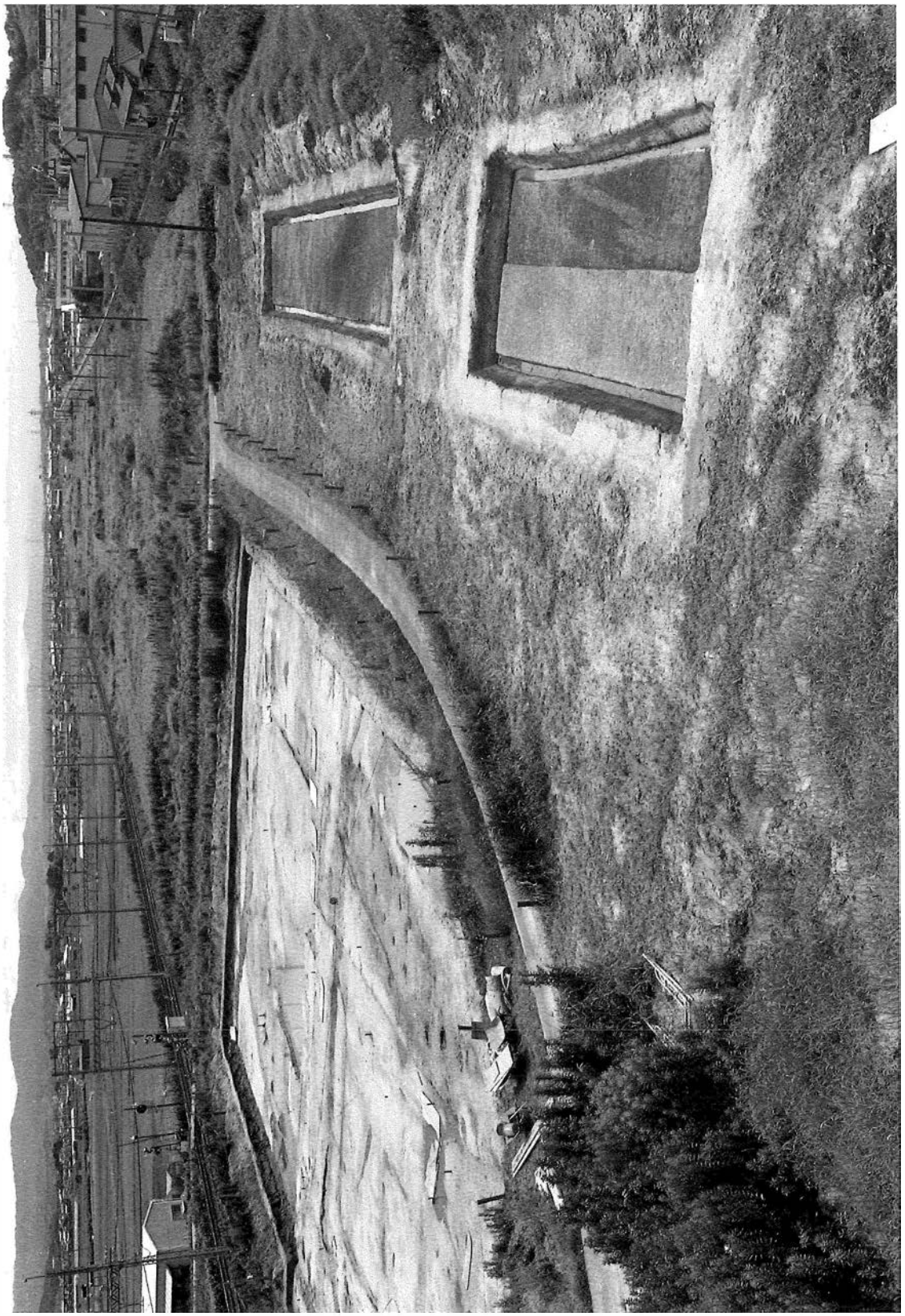
SE18（南から）

SE18 木枠（南から）

図版 第6

（1） 10 トレンチ（西から）

（2） 10 トレンチ（北東から）



12・13 トレンチ（北から）

平成２年３月30日　発行

宮の下遺跡発掘調査概報

（田辺町埋蔵文化財調査報告書　第12集）

編集・発行　田辺町教育委員会
〒610-03 京都府綴喜郡田辺町
大字田辺小字田辺80番地
電話 07746－2－9550

印　　刷　明新印刷株式会社
〒630 奈良市南京終町３丁目464番地
電話 0742－63－0661